

Kumamoto Mental Health Hospital "REFLE"

2024
Summer

夏号

Vol.

79

りふれ



医療法人 再生会

くまもと心療病院

♥ 地域に開かれた病院を目指して…

理念

くまもと心療病院は、精神障害者と共に暮らす、より良き地域社会の実現に向けて、地域における精神保健・医療・福祉に奉仕します。

基本方針

- ① 患者様やご家族に満足していただくために、医療サービスの質の向上に取り組みます。
- ② 全職種が一体となり、チーム医療を実践します。
- ③ 患者様の人権を尊重し、人に優しい安全な医療を提供します。
- ④ 患者様の地域生活を支援します。

巻頭言 2024年 夏

医療法人再生会 くまもと心療病院 理事長・院長 荒木 邦生

今年はなかなか梅雨に入らないと思っていたが、降り出すと心配なくらい雨が続いた。やはり自然は人間の思いどおりにはならない。今年も想像を超えた猛暑になるのだろうが、患者さんが自宅で熱中症にならないか心配である。エアコンと水分補給の重要性を診察時に伝えてはいるが、年々と弱者が生きづらい世の中になっている。

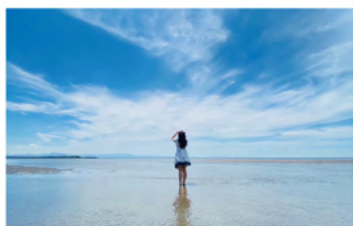
今年は久しぶりに病院の「夏祭り」をしようと思っているが、コロナ前より少し規模を縮小したい。理由は暑さ対策と人手不足である。以前よりも少ない人数で多忙化した病院業務をこなす必要があるが、多大な労力をレクリエーションに割く時間は無いのが現状である。だからと言ってやめるつもりはない。大事にしていることを、如何にその時代の環境で続けてゆけるか、如何に工夫をして守ってゆくかが重要であり、私は「夏祭り」や「文化祭」をととても大事に考えている。

日本の政治では自民党が劣勢である。長年の「政治と金の問題」に対し、改革がぬるいため国民の怒りが止まらない。自民党はどうも国民を甘く見ているようである。いくら野党がだらしなくとも、今度は「お灸をすえる」つもりになっている。

アメリカの大統領選は、バイデンとトランプのどっちがなっても不安だけである。世界のトップリーダーになる人が、認知機能低下か人格水準低下のどちらかの選択とは情けない。欧州では右寄りの政権が次々と誕生しそうである。私はせめてアメリカだけでも民主党に勝ってほしいと思っているが、バイデンは人気が無い。今からでも候補を代えてほしい。

日本では円安の影響で海外からの旅行者が多くなっている。熊本もTSMCの進出がありアジア系外国人が増えている。台湾の企業にあれだけ大きな設備投資が出来て、日本企業にできなかったことが情けない。目先の利益だけ考えて、将来の予測を読み間違えた結果であろう。

いろいろと不安は尽きない夏ではあるが、何とか我々は守るべきものを守りながら、夢のある将来を創造したいものである。



りふれ 2024年 夏号の表紙 …… 夏空

ちょっとした旅行の帰り道、ふらっと通った海。その美しさに吸い込まれるように車をとめ立ち寄りました。大分の真玉海岸です。後から知ったのですが、有名な夕陽のスポットだそうです。今度は、一面が真っ赤に染まり沈んでいく夕陽を見に行きたいと思っています。
(撮影者：柴田 由美)



第15回

食べることは、○○○

「食べる」ということをあらためて考えてみると、それは不思議な行為かもしれません。人は食べなければ生きていく事ができませんが、「生きるために食べなければ」と特に考えることなく、無意識に口に物を運んでいます。普段はなかなか意識しないけれど、人間にとってとても大切な「食べる」について考えてみたいと思います。

私は、病院で管理栄養士として入院患者様への食事を提供し栄養管理を行っています。私にとって食べることは「楽しみ」「好きな事」で、患者様が食べるということが私の「仕事」です。私にとって食べる事はとても身近なことで、また人生の大部分を食に関連したことが占めています。

私が「食べる」ことを考える様になったのは高校時代。読んだ本で『医食同源』という言葉を知ったことがきっかけです。古代中国では医師の最高位に「食医」がおり、王様の食事の調理・管理を任されていました。「薬」としての「食」の重要性が唱えられ、「薬食同源」や「医食同源」の由来となりました。

以前の日本にとって、戦時中の脚気騒動や戦後の学校給食による栄養失調の改善など、食べることは「生きる事」でした。その後、食事の欧米化や多様化による生活習慣病対策に関わる臨床栄養という考えが始まり、食べる事は「健康になること」という時代に。そして現在は、人それぞれの○○○に多様化している様に感じます。

1日3食、1年で1095食、20年で21900食と何万回と続けている食事の中で、何が一番美味しかったかと思われたら皆さんは答えられますか？私は、学生の頃よく母が部活の大会前などに作ってくれたハンバーグを思い出します。美味しいとは単に味覚の事だけでなく、いつどこで・誰と食べたものや誰が作ってくれたものなどの要素が関わっていると思います。

今年5年ぶりに開催されたみどり会懇親会で多くの職員の皆さんと食事をしました。皆で食べる料理はとても美味しく自然と笑顔がこぼれる楽しいひと時でした。

人に良いと書いて「食」、美しい・味と書いて「美味しい」です。食べることで身体も心も成長し元気になります。美味しいと感じる事で、ただ満腹になるだけでなく、感性も満足できます。「食べる」ということには、人をとても幸せな気持ちにしてくれる効果があると思います。

もし、必要な栄養素がすべて含まれた人工的な食品があるなら、人間はそれ以外を食べなくなるのでしょうか。私は違うと思います。食べることは、社会とも繋がっています。農業や畜産業、漁業などの人間と自然を繋ぐもの、文化を作るもの、人と人の関わりを生み出すものではないでしょうか。

「食べることは、○○○」皆さんにとっての○○○は何が入るか、一度考えてみませんか？

Profile

栄養科

木下 純子

Junko Kinoshita

経歴

2001.8.16 くまもと心療病院 入職
2006.4.1 栄養科長就任
2013.8 日本精神科医学会認定栄養士取得
2019.4.20 日本栄養経営士取得

表彰

2017.8 特定給食施設 くまもと心療病院栄養科
栄養関係功労者厚生労働大臣表彰受賞





医療法人再生会

職員互助会みどり会総会・懇親会開催

5月31日（金）18：00より、宇土市内にある「宝友」さんで職員互助会みどり会総会・懇親会が開催されました。総会には71名、懇親会には110名の職員の皆さんが参加。新型コロナウイルスの影響でしばらく開催が中止になっており、5年ぶりの開催でした。

総会では、令和5年度のみどり会の会計報告や今年度の事業計画の説明がありました。懇親会の中では、永年勤続表彰(※)や抽選会、カラオケなどもあり、職員同士お酒を酌み交わしながら食事をすることで大変盛り上がっていました。



※永年勤続表彰（10年、20年勤続など）を受けた方には、目録として特別休暇と旅行などで使用できる褒賞金が授与されます。





第46回 院内研究発表会

くまもと心療病院では毎年「院内研究発表会」を開催しています。初めて開催されたのは昭和53年、今から46年前になります。今年で46回目の開催を迎えますが、発表するのは看護師のみならず、作業療法士や栄養士や薬剤師など様々な職種で、病棟だけでなく、デイケアや訪問看護ステーションなど様々な部署が行っています。そしてここで発表し、いくつかの演題は精神保健学会などでも発表し、院外へ向けての発信をおこなっています。くまもと心療病院は、研修や学会に参加したり、院内でもWEB研修を活用するなど、職員の教育を大切にしています。よりよい医療を目指し、まさに日々研鑽です。

今年は7月5日に院内研究発表会が開催されました。発表演題は以下になります。



1席	精神科病院における虐待に対する意識調査	西2階病棟 坂梨 美由紀
2席	重度認知症患者デイケアの利用者家族の満足度に関する調査	重度認知症患者デイケア ぎんなん 石野 友美
3席	精神科急性期治療病棟の看護ケアにおける性差に関する倫理的ジレンマ	東4階病棟 松本 公太
4席	精神障害者のパーソナルリカバリーについて ～地域生活支援センターを利用する方たちのリカバリーを応援する～	うきうき地域生活支援センター 松井 博子
5席	精神科病院に入院する認知症高齢者の排便ケアに関する課題	看護管理室 堀川 利枝
6席	要介護認知症高齢者に対する携帯型エコーを用いたコンチネンスケア ～携帯型エコーを用いた直腸観察による便秘への効果～	東2階病棟 緒方 颯希



◆ 昭和50年代当時の様子



荒木 邦治 前理事長

▶ 2024年度 自治会の報告

入院中の患者様から直接ご意見をお伺いする自治会を開催しました。病院の行事やお食事についてのご意見やご要望が多く寄せられ、「運動会で折詰弁当を作ってください」といった声もありました。運動会は来年より開催を検討していることと、今年は夏祭りと文化祭を計画していることをお伝えしました。様々な行事の開催や療養環境が、患者様の入院生活にとって心あたったかいものであるよう取り組んでいます。



シリーズ
医療の資格⑮

ゲートキーパー養成講師

Gatekeeper Instructor

私達はゲートキーパー養成講師として、熊本県内、主に宇土市や宇城市で研修を行っています。

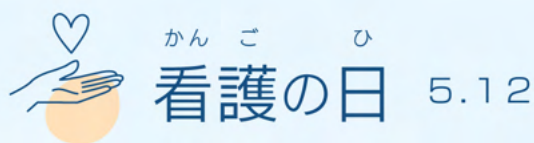
「ゲートキーパー」は「門番」、「命の門番」という意味です。2006年10月に自殺対策基本法が施行され、自殺対策の1つとして、このゲートキーパー養成が始まりました。

ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけてあげられる人のことです。悩みや様々な問題を抱えて追いつめられてしまっている人に対して、気づいて声をかけ、よく話を聞いて、必要な支援につなげたり見守ったりする人のことを言います。つまり、ご家族や友人、同僚など、皆さんだれもがゲートキーパーになれます。悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤独・孤立」を防ぎ、支援することが重要です。一人でも多くの方に、ゲートキーパーとしての意識を持っていただき、専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こしていくことがゲートキーパーの第一歩につながります。

ゲートキーパー養成研修には、医療従事者だけでなく、民生委員や児童委員、養護教諭、救急救命士など地域の住民によく関わっている方々が参加されています。研修では自殺予防の講義や演習を行ったり、適切な関わり方についてお伝えしています。9月は自殺予防週間があり、地域住民に向けたゲートキーパー養成研修が開催されます。昨年

は民生委員さんへ向けた研修が開催され、会場からは実際に経験されたことや、関わることへの不安なお気持ちなど、地域住民に関わっておられるからこそその声を聞かせていただきました。

日本の自殺者数は、自殺対策基本法が施行された当時からすると約1万人減少していますが、現在でも年間2万人を超える人が自殺で亡くなっています。この現状を変えていけるのは人のつながりです。安心できるつながりを増やし、皆で寄り添い見守っていくことが大切です。一人でも多くの方に、ゲートキーパーを知っていただき、自殺対策に関する正しい知識を獲得していただけるよう、今後も取り組んでいきます。



5月12日は「看護の日」です。近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ制定されました。看護協会では看護の日週間事業として各県各支部でいろいろなイベントが開催されています。

当院は事務局として事業を任せられ宇城圏域会員施設の看護職と共に活動、前年度より宇土シティモール様のご協力で中央催事所をお借りし実施しています。今回は健康相談以外に買い物と一緒に来られていた子供さんが、聴診器で自分の心臓の鼓動を聞くなど体験コーナーを設け、お子様を交えご家族に看護師の魅力を伝える場ともなりました。また、住民への健康相談として「まちの保健室」を奇数月の第2土曜13時から15時まで宇土シティモールで行っています。お買い物のついでにお立ち寄り下さい。

認知症疾患医療センター



● 宇城認知症地域連携懇話会学術講演会 認知症疾患医療センター事例検討会

8月2日(金) 18:30～ 於: ウイング松橋

事例検討会 「そのひとらしさを尊重したかわりから生まれた『ありがとう』 ～絆創膏が築いた関係～」

くまもと南部広域病院 病棟師長 野尻 尚子氏

特別講演 「対人支援職のセルフケア ～よりよい支援ができるために～」

あおば病院 公認心理師 上野 麻実先生

● 認知症フォーラム IN 宇土

9月28日(土) 10:00～ 於: 宇土市保健センター

お知らせ コーナー

■ 納涼夏祭り 8月9日(金)18:00～ 於:当院体育館

コロナ禍を過ぎ、病棟毎に開催していた夏祭りを5年ぶりに病院全体で開催することが決定しました。体育館での開催となりますが、たんぼぼ保育園園児や地域の皆様もご参加頂き、盆踊りや抽選会、アトラクションなどで楽しんで頂く予定です。お気軽にご参加ください。お待ちしております。



■ 院内講演会

8月23日(金) 14:00～ 於: 当院体育館

テーマ: 「虐待防止 ～法改正を踏まえた組織作り～」

講師: 吉川隆博先生/日本精神科看護協会会長

平成31年2月以来5年ぶりとなる院内講演会を開催します。精神科に従事する医療者として正しい知識を学び、個人や組織全体が虐待について考える機会を設けたいと企画しました。地域の精神科病院・介護保険施設・市町村職員さんへご案内を差し上げる予定です。



■ 文化祭 10月開催の方向で現在準備中です。

■ オレンジガーデニングプロジェクト

認知症月間(9月)にオレンジの花を咲かせて、認知症の理解や啓発を行うプロジェクト。今年からくまもと心療病院も参加します。



編集後記

梅雨が明け、例年通り暑い夏がやってきました。

毎年この暑さをどうやって乗り切ろうか、と頭を悩ませています。台風が来ないように祈りつつ、熱中症に気をつけて今年も夏のイベントをたくさん楽しみたいと思います。皆様も体調管理に十分気をつけてお過ごしください。
(重度認知症患者デイケアぎんなん 柳本)



関連施設

医療法人 再生会

- 地域拠点型認知症疾患医療センター ☎0964-22-1106
- すみれ訪問看護ステーション ☎0964-22-0402
- 認知症高齢者グループホーム「ぬくもり」 ☎0964-22-1118
- 小規模多機能型居宅介護「ぬくもり」 ☎0964-22-7277
- うきうき地域生活支援センター ☎0964-22-2510
- 自立訓練(生活訓練)事業所「ソレイユ」 ☎0964-22-5366
- 障がい者共同生活援助グループホーム「まつやま」 ☎0964-22-5501



外来診察

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	休診
午後	○	○	○	○	○	休診

診察	月～金曜日	午前の部	9:00～12:30
		午後の部	14:00～17:00

◆休診日：土曜日・日曜日・祝日

お盆休み(8月15日)・年末年始12月30日～1月3日

※ 診察券は、受診時に必ずお持ちください。(診察券は大切に保管してください)

※ 毎月最初の受診日には保険証を提示してください。

※ 診察はすべて予約が必要です。事前にご連絡ください。但し、急患はこの限りではありません。



交通のご案内

- JR鹿児島線・三角線 「宇土駅」下車
→バス(約20分) →タクシー(約10分)
- JR鹿児島線 「松橋駅」下車
→タクシー(約5分)
- 産交バス熊本方面から八代・松橋行
→「松山」下車 (徒歩1分)
- 産交バス松橋方面から熊本行
→「松山」下車 (徒歩1分)
- 松原交差点から八代方面へ車で約5分

